

# 宮島町民意識にみる観光地・宮島像

浅野 敏久\*

## 1 はじめに

本稿では、宮島町における観光と生活に関する町民意識調査の結果を報告する。観光につながる歴史や現状などについて他の著者が別稿を著しているので、ここではアンケート結果の概要を主に記す。次章で本調査の背景にある宮島の観光の現状と問題点について要点を示し、次いでアンケート調査の概要をまとめる。

## 2 宮島の現状と留意すべき点

### (1) 宮島の現況

宮島町の人口は2,191人(2000年)で戦後一貫して減少しており、少子・高齢化の進行も著しい。壮年層とその子供の世代の割合が低いが、この少ない年齢層が島にいないわけではなく、対岸からの通勤者として地域の産業を支えている。宮島における就業者の4割は島外から通ってきている。逆に、島外への通勤者は島内在住就業者のほぼ2割で、その半分以上が広島市内に通勤している。通勤のみならず購買に関しても、宮島町は広島市や廿日市市の商圈に含まれ、中心都市への依存度は以前と比べて高まっている。

宮島町は観光に特化した町で、産業人口構成をみても、サービス業や卸・小売・飲食業の割合が高く、県内他島に類をみない。杓文字や工芸品の製造、観光農園、カキ養殖、観光客向けの水産加工など、1・2次産業も観光業とのつながりが深い。観光客数は年間200~300万人で推移している。NHK大河ドラマ「毛利元就」放映と世界遺産登録の重なった1997年には300万人を越す入り込みがあったが、しまなみ海道が開通した1999年には、

台風被害もあり観光客数は250万人を切ってしまった。

### (2) 宮島の観光が抱える問題点など

#### ア. 逼迫した町財政-2,200人の人口と250万人の観光客のギャップ

宮島町の財政はきわめて厳しい。財政状況が悪化した最大の要因は、競艇の不振による収益金の減少で、近年その落ち込みが著しく、一気に財政危機を迎えてしまった。

宮島の人口はわずか2,200人ほどだが、年間の観光客数は、激減したといわれる平成11年でもその1,000倍以上の250万人にも達した。上下水道やゴミ処理などの生活基盤整備は住民のためであると同時に、観光客の便益にもつながる。観光施設として町立水族館や歴史民俗資料館、海水浴場なども設けている他、公衆便所や街灯などでも観光地ならではの質が求められ、電線の地中化や道路のカラー舗装も行っている。

町財政は住民人口を基礎として成立しており、住民の人口規模と来島者数のギャップが町財政を圧迫する構造になっている。観光客数が伸び悩み新たな収入増になりにくいことに加え、昼間人口就業者のかなりの割合が島外の住民であることも、観光関連の収入が町の財政と直結しにくい一因になる。また、観光客はゴミや尿尿などの処理コストも発生させる。しかし、観光の島として観光地の魅力を高める投資を怠ることはできない。このような状況での町財政破綻は、宮島が観光地としての岐路に立っていることを示している。

\*広島大学・総合科学部広域文化研究講座

#### イ. 文化財保護のための土地利用規制とまちづくり

宮島の青壮年層は職場が島内にあっても島外に居住する例が多い。その理由の一つに、島内の土地利用規制が厳しく新しい家を建てるにすることがあげられる。家を建てられないということだけではなく、道路や施設整備が簡単に行えないなど、土地利用規制をまちづくりの障害と考える人が少なくない。土地利用規制は宮島が古くから文化財の島とされているからで、いつくもの法律の網がかかっている。法的な規制に加え、改変可能な土地である民有地・町有地が合わせて町面積の6%しかない。動かせる土地が少なく地価が高い、しかも厳しい規制がかかっている、というのが宮島の土地事情である。しかし、厳島神社をはじめとする文化財とその周辺環境が守られているからこそ多くの観光客が訪れているわけであり、これらを「守ること」と「利用すること」の兼ね合いが難しい。

#### ウ. 既存の有名観光地が世界遺産登録されるということ

厳島神社は1996年12月に世界遺産に登録決定された。同時に登録された原爆ドームでは、アメリカ合衆国や中国などが反対する政治状況もあって、150万人署名を集めるなど市民運動が盛り上がったが、厳島神社の場合には、条約批准当初から候補リストに載っていたにもかかわらず、地元住民からの登録を求める運動はなく、1995年時点で国や県から話がきたので対処したとのことである。宮島にとっては、厳島神社の価値が世界的に認知されたということ以外には、特別にプラスもマイナスもなかったようである。登録の翌年は300万人を越す観光客が訪れたが、翌年には登録前の水準にすぐ戻ってしまった。

### 3 宮島の観光に対する住民意識

#### (1) アンケートについて

アンケートは2000年2月に、電話帳に登録のある全世帯を対象として郵送法により実施した。対

象とした世帯は790世帯で、宮島町の総世帯数の約8割にあたる。回答数は333通で回収率は42.2%であった。男性63.7%、女性33.6%（無回答2.7%）と男性が多く、年齢的には60歳以上が全体の57.0%と高齢者が多い結果となった。

なお、本アンケートの詳細については別途まとめているので、そちらを参照されたい（浅野・フंक、2001）。ここでは紙面の制約もあり主な結果の記載にとどめる。

#### (2) アンケート調査結果

##### 1) 宮島の観光資源

厳島神社を宮島観光の中心と考えている人が回答者の9割を超えており、厳島神社あつての宮島観光との共通認識が持たれている。神社以外の観光資源としては、弥山などの山の自然をあげた人が63.1%で最も多く、次いで厳島神社以外の史跡や建造物が55.9%、歴史上の出来事や故事などが31.5%となった。海辺や瀬戸内海の景色をあわせて3割にも及ばず、同じ自然でも海より山の方が評価が高くなった。

これらの資源に恵まれた宮島を、世界レベルの観光地であると評価する割合は全体の44.1%、国内レベルの観光地とする割合が39.3%となり、これ以外の評価は少ない。世界遺産と日本三景のどちらが宮島をアピールするかの設問とも共通するが、世界の宮島と考えるか日本の宮島と考えるかは、ほぼ五分五分である。いずれにせよ住民の大部分が宮島を日本を代表する観光地であると認識している。

##### 2) 宮島の観光のあり方について

###### ア. 力を入れるべき分野

宮島において今後、観光に関して力を入れるべき分野を問うたところ、最も高い割合を示したのは「宮島の自然を活かした事業」（36.3%）であった。次いで、「遊園地などの集客力のある観光施設をつくる」（20.1%）で、「歴史を活かせる事業」（17.4%）、「厳島神社を活かせる事業」（13.5%）が続く。

「厳島神社を活かせる事業」と答えている人は、他の選択肢を選んだ人よりも保守性が強く、

表1 力を入れるべき分野と厳島神社などを活かす方向とのクロス表

	回答数	全体	守り伝える ことが第一	現状程度の 活用	周辺環境の 整備	関連集客施 設をつくる	無回答
全体	333	100.0	48.3	6.6	28.8	13.5	2.8
神社を活かす	45	100.0	57.8	11.1	22.2	4.4	4.5
歴史を活かす	58	100.0	63.8	3.4	24.1	6.9	1.8
自然を活かす	121	100.0	43.8	5.8	40.5	8.3	1.6
集客施設をつくる	67	100.0	29.9	9.0	26.9	32.8	1.4
料理や土産物の開発	3	100.0	33.3	0.0	33.3	33.3	0.1
他の観光地との連携	23	100.0	69.6	0.0	8.7	21.7	0.0
無回答	16	100.0	50.0	12.5	12.5	6.3	18.8

基本的に現状の延長線上に将来の望ましい方向をとらえている。具体的には、厳島神社その他の文化財の活かし方として「文化財として守り伝えることが第一である」を選んだ人が57.8%で、全体平均の48.3%を上回る(表1)ほか、山の自然や景色の活かし方として「山の自然環境の保全を中心に考える」が57.8%(全体では42.3%)、海辺の自然や景観の活かし方としても「海辺の自然環境の保全を中心に考える」が60.0%(全体では45.9%)となっている。

「歴史を活かした事業」と「自然を活かした事業」を選んだ層は、「厳島神社を活かせる事業」に準ずる保守性を示す。ただし、「歴史」の回答者は「厳島神社」の回答者より神社について「文化財として守り伝える」ことを指向し、「自然」の回答者は、遊歩道や町並み、駐車場の整備など周辺環境を整える割合が高くなった。

全般に保守的な傾向が強く感じられる中で特異な傾向を示したのが、「集客力のある観光施設をつくる」を選んだ層である。厳島神社などの活かし方として「神社や史跡にちなんだテーマパークをつくる」(32.4%)、山の自然や景観の活かし方として「スポーツ・レジャー施設をつくる」(38.8%)、海の自然や景観の活かし方として「スポーツ・レジャー施設をつくる」(46.3%)が最も多くなった。既存の施設についても現状維持(32.8%)に次いで「新しい施設をつくる」が26.9%となり、他とは異なる結果になった。

#### イ. 町の観光行政について

町の観光行政について、「よくやっている」は21.9%、「問題がある」が71.2%であった。別に尋ねた観光振興のための財政規模については、「今以上に投資すべき」が45.9%、「現状程度でよい」が28.2%であり、「観光振興にお金をかけすぎている」は19.8%にすぎなかった。観光行政に「問題がある」と回答した人の53.6%は「今以上に投資すべき」を選んでいる。消極的な観光対策が問題視されている。財源配分についての設問でも「宮島は観光の島なので、より積極的に観光振興を図るべき」が56.2%と半数を超えた。宮島は観光の島であり、積極的な観光振興が大切であると考えられている。

観光行政に「問題がある」と答えた人は「よくやっている」と評価した人と比べ、宮島の地域資源が観光に活かされているかの設問で、「海辺の自然や景色」や「旅館や土産物店が並ぶまちなみ」、「祭りやイベント」が活かされていないと判断する割合が高い。特に「海辺の自然や景色」が活かされていないと感じている人は6割を超えている。

地域資源の活用方向との関係では、観光行政に「問題がある」と答えた人は「よくやっている」と評価した人と比べ、厳島神社他の文化財の活かし方として、周辺環境整備や神社・史跡などにちなんだテーマパークをつくるなど、積極的な活用策を選ぶ傾向が強い。一方、水族館や民俗資料館などでは、「問題がある」とした人は「施設の拡充」より「町財政に見合った経

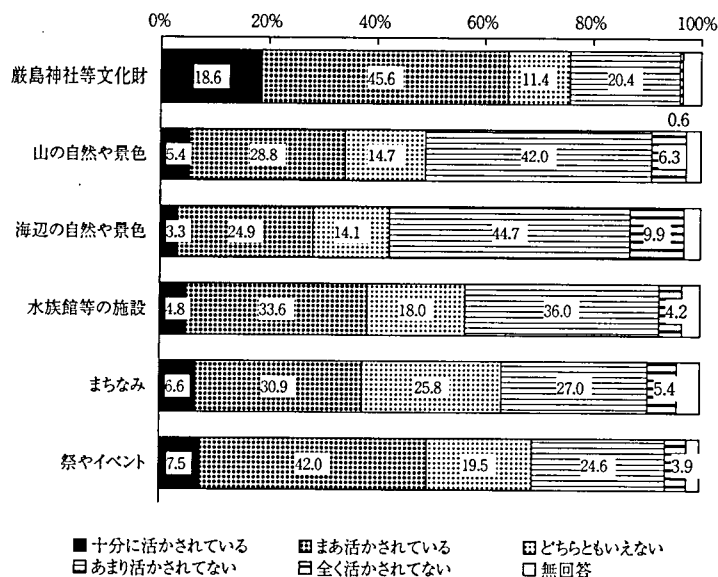


図1 宮島の観光資源は活かされているか

営を行う」べきとの評価している。

### 3) 宮島の観光資源は活かされているか

次のア～カについて観光面で活かされているかどうかを質問した(図1)。なお、それぞれの結果は相互に似た傾向を示し、ある資源が活かされているとする人は、他の資源も同じように活かされていると考える割合が高くなり、逆にある資源が活かされていないと評価する人は、他の資源も活かされていないと評価する傾向がある。

#### ア. 厳島神社、その他の文化財

「十分に活かされている」が18.6%、「まあ活かされている」が45.6%となり、他の資源と比べて「活かされている」の回答が多かった。「十分に活かされている」は、他の資源の場合と比べて2～3倍も割合が高い。神社などが観光に活かされていると答えた人の多くは、これらをどう活用すべきかとの設問に対して「文化財として守り伝えることが第一」と積極的に次世代に守り伝えることを指向し、活かされていないと考える人は、周辺環境整備や集客施設の整備を求める割合が高くなる。

#### イ. 弥山その他、山の自然や景色

山の自然や景色については、「活かされている」とした割合が「十分」と「まあまあ」をあわせて34.2%、「活かされていない」が48.3%とな

った。次の海辺の自然や景色と同様、自然が観光に活かされていないとする割合が高い。

#### ウ. 包ヶ浦その他、海辺の自然や景色

海辺の自然や景色については、「活かされている」とした割合が「十分」と「まあまあ」をあわせて28.2%、「活かされていない」が54.6%と半数を超えた。山の自然の方より海辺の自然の方が活かされていないと考えられている。「全く活かされていない」が9.9%もあり、他の資源と比べてかなり高い。

#### エ. 水族館や歴史民俗資料館、公園などの施設

水族館などの施設については、「活かされている」とした割合が「十分」と「まあまあ」をあわせて38.4%、「活かされていない」の40.2%とほぼ同じくらいになった。

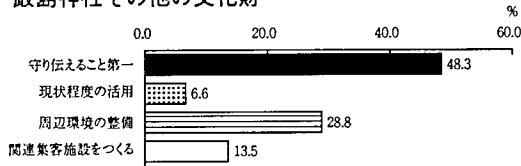
#### オ. 旅館や土産物店が並ぶ町なみ

「旅館や土産物店が並ぶ町なみ」については、「活かされている」とした割合が「十分」と「まあまあ」をあわせて37.5%、「活かされていない」が32.4%とほぼ同じくらいになった。水族館などの施設と比べると、やや良い評価が多い。

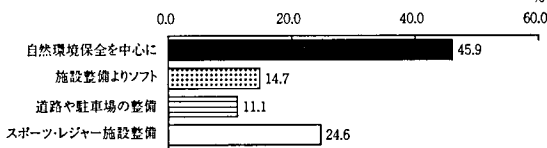
#### カ. 各種の祭りやイベント

「各種の祭りやイベント」については、「十分に活かされている」と「まあ活かされている」でほぼ半数を占め、「厳島神社その他の文化財」

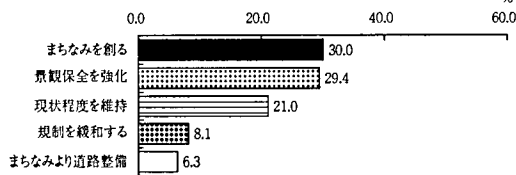
ア. 巖島神社その他の文化財



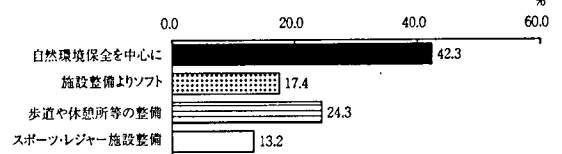
ウ. 包ヶ浦その他、海辺の自然や景色



オ. 旅館や土産物店が並ぶ町並み



イ. 弥山その他、山の自然や景色



エ. 水族館や歴史民俗資料館、公園などの施設

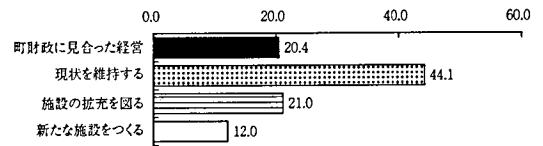


図2 宮島の地域資源を活かす方向

に次いで観光に活かされている割合が高くなった。観光行政の評価との関係を見ると、「よくやっている」とした層の7割が、祭りやイベントは観光に活かされていると評価しており、他の資源と比べて特に高い。

4) 宮島のそれぞれの地域資源を活かす場合に望まれる方向

次のア～オの地域資源についてどのような活用方向が望ましいかを尋ねた(図2)。資源は異なっても、守ることを重視する人は資源を問わず守ることを重視し、新たな集客施設を必要と考える人は、場所やテーマを問わずそれが必要と考える傾向が強い。

ア. 巖島神社、その他の文化財

「文化財として守り伝えることが第一」とした人が48.3%とほぼ半数を占め、他の項目と比べて最も高い割合になった。次いで「町なみや遊歩道など周辺環境を整備する」、「神社や史跡にちなんだテーマパークなどをつくる」となった。

文化財保護のための各種規制をどう思うか尋ねた設問との関係を見ると、「守り伝えることが第一」とした層では、町にとって規制は「必要である」と考える割合が高く(65.8%)、自分

の問題としては「文化財を守ることは宮島住民の責務」と考える割合が高くなった(67.1%)。これに対して「関連集客施設をつくる」を選んだ層では、町にとって規制が必要と考える割合は全体平均の半分程度と少なく、「規制がまちづくりの障害になっている」や「規制があるために人が町から出ていってしまう」と考える割合が高い。また、「現状程度の活用で十分」を選んだ層は、観光行政をよくやっていると評価するものの、各種の規制についてはあまり好ましく思っていない。

イ. 弥山その他、山の自然や景色

山の自然や景色については、「自然環境保全を中心に考える」が42.3%で最も多く、次いで「歩道や休憩所などの整備」、「施設整備より観察会などの充実」、「スポーツ・レジャー施設の整備」と続く。

ウ. 包ヶ浦その他、海辺の自然や景色

海辺の自然や景色について「自然環境保全を中心に考える」が45.9%で最も多く、「スポーツ・レジャー施設の整備」、「施設整備より観察会などの充実」、「道路や駐車場の整備」と続く。山と比べ「保全を中心に考える」べきの割合が

やや高いが、それよりも「スポーツ・レジャー施設の整備」が2倍近く高いことが特筆される。資源が活かされているかを尋ねた設問でも、海辺の自然や景色が「活かされていない」割合が、山のそれよりも高くなったように、海と山とでは意識の違いがある。

#### エ. 水族館や歴史民俗資料館、公園などの施設

水族館などの施設については「現状を維持する」が最も多く、「施設の拡充」、「町財政に見合った経営」、「新たな観光施設」と続く。観光行政の評価との関係を見ると、「町財政に見合った経営を行う」べきとした層は、その約9割が現在の観光行政に問題があると考えている。施設の拡充や新規施設を求める場合にも「問題がある」の割合がやや高くなった。また、観光振興ためのお金のかけ方について、「町財政に見合った経営」と考える場合は「お金をかけすぎている」を選び、施設の拡充や新設を求める場合には6、7割の人が「今以上に観光振興ために投資すべき」を選んでいく。

#### オ. 旅館や土産物店が並ぶ町なみ

「観光客の好みやイメージにあった町なみを創造する」と「景観保全を強化して町なみを守る」がほぼ同程度で多くなった。

### 5) 観光地であることのメリット・デメリット(表2)

#### ア. 観光地であることの生活上のメリット

観光地であることのメリットとしては、「上

下水道などの生活基盤の整備が進んでいる」が最も多く、半数の人がこのことをメリットと考えている。魅力ある観光地であるためにこれらは必要な投資であるが、施設の維持は財政上の大きな負担でもある。半数の人が生活基盤整備をあげたことは、このことが住民に理解されていることの現れではないかと考えられる。以下、「知名度が高い」、「仕事につながっている」、「散歩したりする環境に恵まれている」、「渡船の便がよい」と続く。

#### イ. 観光地であることの生活上のデメリット

観光地であることを「迷惑とは思わない」が45.9%で最も多く、「たまに迷惑に思う」が44.7%となり、基本的には観光地であることをあまり迷惑に感じていない。あえて、観光地のために迷惑を被っていると感じることをあげれば、「ゴミが町中に散乱する」が最も多く、次いで「観光客が与える餌で鹿が増える」、「交通渋滞が起こる」、「なにごとにも観光が優先される」、「風紀上・治安上のトラブルが起こる」、「イベントなどの手伝いになり出される」となった。

### 6) 厳島神社の世界遺産登録について

#### ア. 世界遺産登録を知った時期

登録されることを知ったのは、登録が決まるまでの1年間という人が61.9%で最も多く、それ以前から知っていた人は18.6%とあまり多く

表2 観光地であることのメリット・デメリット(複数回答)

役立っていること		迷惑を被っていると感ずること	
項目	割合(%)	項目	割合(%)
上下水道等の整備	50.3	ゴミが散乱する	59.2
知名度が高い	41.3	鹿が増える	44.1
仕事につながっている	40.4	交通渋滞がおこる	39.0
環境に恵まれている	33.1	何事にも観光が優先	19.2
渡船の便がよい	27.7	風紀治安上のトラブル	9.6
人口の割に施設が充実	22.0	イベント等の手伝い	7.2
ふるさとを自慢できる	19.3	静かに休めない	3.3
多くの人との出会い	17.8	人に見られている感じ	1.8
町ににぎわいがある	15.1	観光客からの干渉	0.9
その他	0.9	その他	7.8

なかった。これは、文化庁から教育委員会を通じて地元の話が伝わったのが登録の1年ほど前だったという話と符合する。しかし、厳島神社は日本が世界遺産条約を批准した時点で(1992年)今後申請すべき遺産のリストに載っていたことを考えると、地元で世界遺産登録を求めるような盛り上がりはあまりなかったと推察できる。登録が決まるまで知らなかった人も14.7%いた。

イ. 世界遺産登録に向けて個人的にとった行動

「活動があれば協力したかったが、そのような活動がなく参加できなかった」が最も多く(40.2%)、以下「住民が行動することではないので何もしなかった」(23.4%)、「世界遺産登録に関心がなく何もしなかった」(7.2%)と続き、「世界遺産登録されることに反対だった」人もわずかながらいた(1.5%)。住民は世界遺産登録を好意的に受け取ってはいたが、自分が関わろうとするほどには積極的に考えていなかった。住民が関わることではないと考える人も4人に1人おり、登録に向けて町民全体が盛り上がったという雰囲気ではなかったようである。ただし、関心の有無を尋ねた設問では、8割近い人が関心を持っていたと答えている。

ウ. 厳島神社の登録に際して抱いた期待や不安

厳島神社が登録されることへの期待や不安について尋ねた。最も多かったのは「より確実に文化財が守られるようになると思った」で、次いで「宮島の宣伝になって観光客が増える」、「世界に認められると誇らしく思った」、「建築

規制などが強くなるのではないかと不安に思った」となった。期待か不安のどちらかといえば、登録を期待した人の方が多かったといえる。ただし、観光客が増えると期待した人が約2割しかいなかったことや、登録されることに不安を抱いた人が少なくなかったことは特筆できる。

エ. 世界遺産登録されてよかったこと

世界遺産に登録されてよかったことは何かを尋ねたところ、最も多かったのは「厳島神社や宮島の知名度が上がった」で、ほぼ半数の人が登録によって宮島の知名度が上がったことを良しとしている。以下、「厳島神社や宮島への世間の関心や知識が増えた」、「国際的な観光地になった」、「文化財保護の支援体制が強化された」、「住民の神社への思いが強くなった」などが続いた(図3)。世界遺産に登録された効果は、意識面での効果が主と考えられている。「観光客が増えた」は最も割合が低かった。

オ. 世界遺産登録されて好ましくない影響があったこと

「好ましくない影響はなかった」が55.6%で最も多く、これに次いで「文化財を守るための規制が強くなった」と「なにごとにも文化財の保護が優先されるようになった」が2割程度あり、他の項目の割合は低かった。特別に規制が強化されてないので、これらは必ずしも事実と合っていない。以前から規制の存在を好ましく思っていなかった人が、世界遺産登録を機に改めて規制の存在を再確認したということであろう。

多くの住民が、宮島・厳島神社の知名度は上

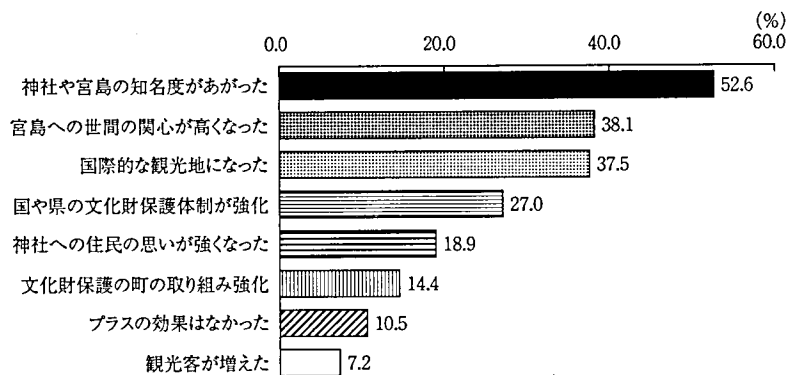


図3 世界遺産に登録されてよかったこと(複数回答)

がったものの、それ以外には特別にプラスの効果もマイナスの効果もなかったと考えている。実際に観光客数の増加という点では、登録の効果はあったとしても一瞬のことであった。

#### 7) 文化財の島としての各種規制について

##### ア. 町にとって

「文化財を守るためには規制は必要である」が55.6%で圧倒的に多い。しかし、「規制があるために人が町から出ていってしまう」と「規制がまちづくりの障害になっている」を合わせると22.2%となり、マイナス面の認識も少なからず持たれている。

##### イ. 自分自身にとって

「やむをえない」が51.4%と最も多く、これに次いで「規制は当然で、むしろ文化財の島に住んでいることを誇りに思う」が22.8%となった。町にとって文化財を守るための規制は必要であり、一住民である自分自身としてはやむを得ないと考える住民が全体的にみれば多い。「規制を緩くしてほしい」は9.9%、「迷惑なだけなのでなくしてほしい」は2.1%となったが、上の間で町にとってマイナスであると認識している人が2割を超えていることと比べると、自分の問題としてマイナス面を意識している人は少なくなる。

##### ウ. 日本国民や後世の人々に対して

国民や後世の人々に対して、「文化財を守ることは宮島住民の責務」と答えた人が58.3%となった。たとえ建前としても約6割の人が住民の責務と答えたことから、宮島住民であることへの誇りが感じられる。この選択肢に次いで、「住民の犠牲のもとで文化財が守られていることを理解してほしい」が14.7%、「日本や世界の遺産ということよりも住民の生活が優先されるべきだ」が10.5%になった。

## 4 ま と め

以上は1回限りのアンケート調査でしかもその概要を示しただけなので、この結果だけで宮島町民意識からみた宮島像を考察しようとすることに

は無理がある。それを承知の上で敢えて今回のアンケートから読みとれる「宮島」についてまとめてみる。

まず、宮島は自他共に認める観光地である。時代によりさまざまな対応をしてきたとはいえ、基本的に宮島は余所から人を集めることで地域社会を成立させてきたわけであり、住民もそのことを認識している。新興のしまなみ海道の住民意識と比べるとその違いは顕著である(浅野・フंक、2001)。観光客が多いことはよいことであり、観光地であることに迷惑を感じないし、財政危機の行政に対して更なる観光施策を期待する。

住民の大半が宮島を日本を代表する観光地と認識している。その中心は、なんといっても厳島神社で、その他、自然や歴史・文化財等を主要観光資源と考えている。なかでも山の自然に対する評価が高く、海の評価は低い。この点、海と島々の織りなす景色を売りにする瀬戸内の島嶼の中では特徴的かもしれない。少なくともしまなみ海道の瀬戸田町とは逆の傾向である。宮島町民は、海を観光資源として低く評価し、活用されていないと感じ、それを活かすために、他の資源の場合以上に新規集客施設を建設すべきと考えている。

新規開発を求める声があるといっても、全体的な傾向としては、地域の資源を守り伝えるべきと考える保守的な傾向が圧倒的に強い。特に厳島神社や各種文化財・歴史等は、住民が生活に不便を感じるがあっても守り伝えることが住民の責務と考える人も多く、自然も開発するより保全すべきと考えられている。「神の島」として、文化財の島として、宮島の自然や文化は「守り伝えるべきもの」と現在の住民の多くが認識している。このことは、当面、貴重な歴史・文化や自然は守られるだろうと個人的に喜ばしく思うが、宮島は過去に遡って守りの姿勢が強かったわけではなく、むしろ積極的によその人を呼び込む仕掛けを創り続けてきた島ではなかろうか。古くは平家との結びつきにはじまり、近世の御師や船宿の全国的な集客活動、遊郭や富くじなどによる行楽・歓楽地化、島をPRするための厳島八景や日本三景などキャッチフレーズの活用、さらに色楊枝や杓



文字、もみじ饅頭などの土産物開発など、しぶとさ・抜け目なさ・力強さを感じさせる。聖と俗の双方を強く押し出してきたところに宮島の活力の源がある。そのように考えると今の住民意識の中にみられる消極的な保守性というか、優等生的な意識には、車輪の片側である「神の島」の表の面ばかりが強調されすぎているようにも感じられる。文化を守る一方で、新しい文化に敏感に反応する進取性を取り戻すことが今の宮島には必要か

もしれない。

## 文 献

浅野敏久, カロリン・フンク (2001) 『瀬戸内観光地域の形成と変容—宮島としまなみ海道を事例として—』地誌研叢書 (広島大学総合地誌研究センター), 106 p.